くじゅう黒岳地域の 哺乳類

タヌキの生態

くじゅう黒岳地域には15種類の哺乳類が，直接観察や地元の人たちからの聞き取り調査で確認されました。確認された哺乳類の中には，大分県では黒岳地域と祖母山地域にしか生息していないヤマネが含まれていました。具体的な動物名は，表1を参考にしてください。

今回は，私たちにとって馴染み深いタヌキの生態について取り上げます。昔話に出てくる動物には，キツネやウサギなどがありますが，タヌキは愛敬のある姿や何となくユーモラスな行動そして時には人を騙す動物として昔から取り上げられてきました。これは，タヌキの体型，行動，生息場所などによるところが大きいと思われます。みなさんはタヌキと聞いてどんな姿を思い浮かべますか。置物のお腹が突き出た姿ですか。或いは夜，車のヘッドライトに照らし出された道路脇での姿や家の裏庭に出てくる姿ですか。タヌキのいろんな生態について見ていきましょう。

ため糞

タヌキには，糞を決まった場所でするというおもしろい習性があります。その糞のことをタヌキの「ため糞」といいます。一つひとつの糞は6㎝前後の大きさで少しねじれています。

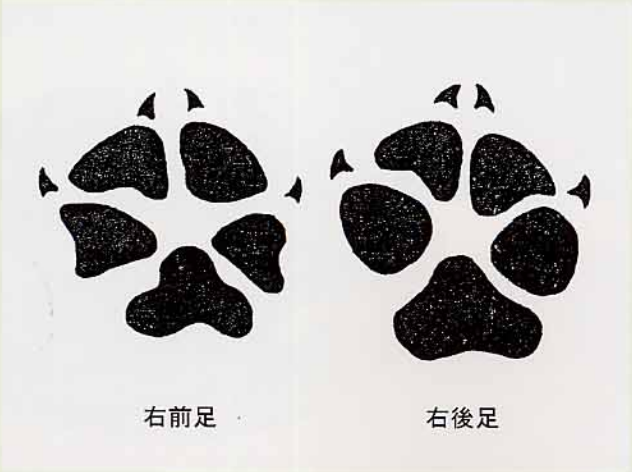
この「ため糞」は，何らかの個体間のシグナルに利用されていると思われています。

もし林の中などで「ため糞」を見つける機会があれば糞の中をのぞいてください。タヌキがどんなものを食べているかがわかるでしょう。

タヌキの「ため糞」

タヌキはイヌの仲間

タヌキの体型は，全体的にずんぐりしていて耳や足は短い。その体型からは，スマートなキツネやオオカミなどと同じイヌ科の仲間とは思われませんが，れっきとしたイヌ科の一員です。イヌ科の中でも比較的古い部類に入ると考えられています。



タヌキの足跡

同じ穴のムジナ

昔から「同じ穴のムジナ」として取り上げられるアナグマとは一緒にされることがよくあります。実際には，アナグマはイタチの仲間です。

タヌキもアナグマも地面に開いた穴に生活していて，その分布もほとんど日本では，重複しているのでこのような諺（ことわざ）ができたのでしょう。

しかし，アナグマは地面に自分の穴を掘るために足の爪が長く伸びているのに対してタヌキは，決して穴を掘ることはしません。ですからタヌキは，自然にできた穴やアナグマが掘った穴などを利用しています。時としてアナグマとタヌキが同居していることがあります。

アナグマ

分布についてみるとアナグマはヨーロッパから日本までのユーラシア大陸北部に広く分布しているのに対して，タヌキは日本，朝鮮半島，中国にかけての東アジアに分布しています。ヨーロッパにも生息していますが，これはアジアから移入されたものです。

タヌキの生活

タヌキの繁殖期は，早春の３月ごろで，５月から６月ごろに３～５頭の子ダヌキを出産します。そして秋まで家族で過ごします。その後，子ダヌキはその集団から離れていきます。餌は，小型の動物，昆虫，果実類，そして土壌動物（幼虫・ミミズ）等の雑食性です。実にいろんなものを採食します。その結果，人間が捨てた残飯などを食べるために，人間社会と比較的近い環境でも生息できます。

表１．くじゅう黒岳地域で確認された哺乳類　（直接観察・聞き取り調査）

コウベモグラ	*Mogera robusta*	カヤネズミ	*Micromys minutus*
カワネズミ	*Chimarrogale himalayica*	キツネ	*Vulpes vulpes*
アブラコウモリ	*Pipistrellus abramus*	タヌキ	*Nyctereutes procyonoides*
ニホンザル	*Macaca fuscata*	テン	*Martes melampus*
ノウサギ	*Lepus brachyurus*	イタチ	*Mustela itatsi*
ムササビ	*Petaurista leucogenys*	アナグマ	*Meles meles*
ヤマネ	*Glirulus japonicus*	イノシシ	*Sus leucomystax*
アカネズミ	*Apodmus argenteus*		